



さぎ もり 鷺の杜

令和7年12月10日
中野区立鷺の杜小学校
校長 武智直貴
学校だより 特別号

道徳授業地区公開講座のご報告

校長 武智直貴

遅ればせながら、先日11月8日（土）に実施いたしました、今年度の本校「道徳授業地区公開講座」につきまして、「学校だより特別号」の形で、以下にご報告させていただきます。

当日は、ちょうど本校がインフルエンザの蔓延期で、ひとクラスが学級閉鎖だったうえに、ほとんどの学年でインフルエンザの罹患者をはじめ体調不良による欠席者がいる状況でしたので、各担任が当日に向けて授業準備等を進めていたこと、講師の先生も体調が振るわない中この日に向けてご講演の準備を進めてくださっていたこと、感染症対策としてそういう状況での学校公開は控えた方が良いのでは…という保護者の方からのお声もいただいたこと等を鑑み、急遽ではありましたが、非公開の形で実施をさせていただくことにいたしました。当日の対応につきまして、あらためてご理解をいただければと思います。

この「学校だより特別号」では、巻頭の校長挨拶に加え「当日の授業について」「道徳主任より」そして、当日のご講演の様子をご視聴いただくためのサイトの紹介（QRコード）を載せています。百聞は一見に如かずで、本来ならば授業も講演も直接見聞きしていただくことが望ましいのですが、今回は紙面による授業の事後報告と講師講演の動画視聴ということで、今年度の道徳授業地区公開講座に替えさせていただく旨、ご理解の程よろしく願いいたします。

第2部 講演会

「子どもの内面を育む大人のかかわり」

～わたしたちのまなざしと言葉かけ～

…「マナー指導」に触れながら…

講師：中野区教育委員会指導室教育アドバイザー

前中野区立令和小学校長 **松井 敏 先生**



講師の松井 敏 先生は、私の元同僚であり、長年同じ中野区内で校長を務めてきた仲間です。道徳を専門として研究をされてきて、東京都小学校道徳教育研究会の会長も務められました。この春退職をされ、今は中野区教育委員会の教育アドバイザーとしてご活躍されています。

事前にメール配信システム「すぐーる」で講師が用意してくださった資料をお送りいたしました。今年度本校は「マナー意識の向上」を重点としていることから、「道徳授業地区公開講座」でもこのことと関連させて取り組みたいと講師にお願いしていました。講演では、①道徳授業の特質について ②子どもの内面を育む大人のかかわり ③マナー指導について という内容でお話いただいています。

グローバル化が進み、国を行き来する方がたくさんいて、また外国の方々とのかかわりが増えたことで、国によって様々なマナーがあることを知り、多様化しているためになかなか定着しにくいという背景もありますが、道徳の指導を通して自分も相手も大切であるという思いを強くし、そのことの行動での示し方が「マナー」であるとの理解で、今後も本校としての指導を充実させていきたいと思っております。

お忙しい所大変恐縮ですが、ぜひこの学校だより特別号に目を通していただき、また講師の講演をじっくりとお聞きいただければ幸いです。よろしく願いいたします。

1年生

1年1組：倉富千尋

1年2組：西内啓太

1年3組：鈴木瑞穂



「それって、おかしいよ」という教材を使い、滑り台の順番を待っていた時、何度も横入りをして、滑ろうとしている友達に「それって、おかしいよ」とはっきりと伝えることができた「ぼく」の気持ちを考えました。よいことと悪いことを区別し、勇気をもって行動しようとする心情を育てることをねらいとして、子どもたちは自分の経験と重ね合わせながら、勇気をもって正しいことを判断することの大切さに気付いていました。

〈児童の振り返りから〉

- ・休み時間にトイレに行くときに「走っちゃ、だめだよ。」と勇気を出して言ったことがある。
- ・いつも緊張するから言えないけど、次からは悪いことには勇気を出して、ダメって言ってみたい。
- ・自分も同じように横入りされて、ダメって言ったことがある。

2年生

2年1組：川端 綾

2年2組：高木日奈子

2年3組：町田利章



1組では、「わすれられないえがお」という教材を使って、善悪の判断、自律、自由と責任の観点から、よいと思ったことは進んで行おうとすることをねらいとして授業を行いました。自分だったら…と考えることができ、多くの児童が「わざとではなくても悪いことをしてしまったら謝りたい」という思いをもちました。

2組では、「かくしたボール」という教材を使って、約束やきまりの大切さを知り、みんなが使うものを大切にしようとする態度を育てることをねらいとした授業を行いました。主人公の男の子の、ボールを独り占めしたい心情に理解を示しつつも、それでもみんなが使うためにはルールを守って使わないといけないと考える姿が見られました。

3組では、「きいろいベンチ」という教材を使い、みんなが使うもの（公共物）を使うときに気を付けることについて話し合い、考えを深めました。話し合いの中で、「相手の立場に立つ」など多様な視点から意見が出され、子どもたち一人ひとりが自分の考えを深めることができました。

3年生

3年1組：植竹康成

3年2組：鮎澤麻衣

3年3組：宮本夏子



「SL公園で」という教材を使い、正しいと判断したことは、自信をもって行おうとする心情を育てることをねらいとして授業を行いました。登場人物の「しんご」の気持ちを通して、正しくないことをしている人を止めるよさとは何かを多面的・多角的に考え話し合いました。振り返りでは、悪いことだと思った時に、これからどうしたいか、自分に向けての応援メッセージを書きました。一部をご紹介します。

1組：「さそわれても注意したり、断ったりしたい。」「自信をもとう。」

「ダメだよと言えるようにする。自分もやめようね。」

2組：「悪いことだなと思ったときには、きっぱりと断れば大丈夫！頑張れ！」

「友達が悪いことをやっていたら止めようね。不安な気持ちも分かるけど頑張ろう。」

「悪いことを注意できるような自分になりたい。」

3組：「してはいけないことは、きっぱり断っていこう。」

「悪いことだと思ったら勇気を出して注意したり、止めたりしてあげよう！」

「悪いことをする前にちゃんと後のことを考えられる自分になろう。」

4年生

4年1組：鹿毛亜希子

4年2組：山本華歌

4年3組：藤井幸子



4年生の1・2組では、「日曜日のバーベキュー」という教材を使い、約束や社会のきまりの意義を理解し、守っていこうとする態度を育てることをねらいとして授業を行いました。1組では、なぜ学校や社会できまりを守るのか、守らないとどうなるのか、様々な面から意義について考え、それをもとに自分の経験や行動を見つめ直す様子が見られました。

2組では、ルールが誰のためにあるのか、そのきまりを守る人と守らない人との違いなどについて考え、学級全体で話し合いました。また、作品の登場人物になりきることで、今後の生活では、「きまりや約束を守って行動していきたい」と考えた児童が多く見られました。

3組では、「ドッジボール」という教材を使って、正しいと判断したことは、自信をもって行おうとする態度を育てることをねらいとして授業を行いました。葛藤を乗り越え、正しいと思ったことを自信をもって行うことの難しさやよさについて考え、話し合いました。振り返りでは、自己の行動を見つめ直し、「正しいと思ったことは、勇気を出して自信をもって伝えていきたい」と決意する児童が多く見られました。

5年生

5年1組：日谷和成

5年2組：伊藤桂子

5年3組：水島大地

5年4組：高本七海



5年生は、「遊園地のできごとから」という教材を使い、権利や義務の観点から、自分や相手の行動について考えを深め、互いの権利を尊重しようとする心情を育てることをねらいとして授業を行いました。

1組では、お客さん一人ひとりには、「他の人が見る権利を守る義務がある。」と、義務を果たしてから権利を主張するべきだという意識が高まっている様子が見られました。

2組では、「皆の権利が尊重されるような新しいルールをつくるべきだ。」「相手の立場で考えたうえで自分の権利を主張する。」など、権利は皆にあるものという意識が高まっている様子が見られました。

3組では、自身の権利を主張したいという思いや、それにより他者の権利が奪われてはいけないという思いなどを想像しながら、活発な意見交流が見られる授業になりました。

4組では、権利は全員にあるものと認識したうえで、全員が気持ちよく見ることができるようになるにはどうしたらよいかを、意見交流を通して考える様子が見られました。

6年生

6年1組：設楽和輝

6年2組：山下 雛

6年3組：完山花澄



1組では、「修学旅行の夜」という教材を使って、自由の大切さを理解し、自他の自由を尊重した責任のある行動が取れるよう、自律的に判断する力を育てることをねらいとして授業を行いました。自由と自分勝手の違いについて考え、それをもとに自己を見つめ、自分の経験を振り返る様子が見られました。

2組では、「ピアノの音が……」という教材を使って、権利と義務について考え、自他の権利を大切にするとともに、自らの義務を果たそうとする態度を育てることをねらいとして授業を行いました。それぞれの権利を主張する互いの立場に立って話し合い、気付いたことを交流する中で、権利を主張するときに大切なことを考える様子が見られました。

3組では、「世界人権宣言から学ぼう」という教材を使って、人権に関する考えを深め、自他の権利を尊重してよりよい社会にしようとする態度を育てることをねらいとして授業を行いました。自分の権利を主張する際に大切なことについて友達と話し合うことで、クラスの一員として自他の権利を尊重するために自分にできることを考える様子が見られました。

しらすぎ

しらすぎ1組：萬代浩子

しらすぎ2組：渡邊悠子

しらすぎ3組：首藤美鈴

しらすぎ4組：伊藤健太郎



1組では、「プクーのうろこをさがせ」(NHK for school)という教材を使って、よいことと悪いことを区別できる力を養うことをねらいとして授業を行いました。いけないことをして事件を起こした主人公の様子から、ダメと言われたことはやめることや、自分の行動がよいことか悪いことかを考えることの大切さに気付くことができました。

2組では、「ダメ」という教材を使って、善悪の判断について考えました。お話に出てきた場面をふりかえり、くまとりすのぬいぐるみを使ってペアでロールプレイをしました。子どもたちは勇気をもって「ぼくは、いやだったんだ」「だめだよ」とくまくんに伝え、りすくんの気持ちを想像していました。

3組では、「きまりじゃないか」という教材を使って、きまりを守ることにについて考えました。周りの友達に流されてしまっている男の子や、周りの友達に流されずきまりを守ろうとする主人公の男の子の行動に着目し、意見を出し合いました。きまりを守ることは、気持ちよく学校生活を送ることに繋がっていると気付くことができました。

4組では、「かくしたボール」という教材を使って、約束やきまりを守って生活することについて考えました。主人公の男の子が、空気の入ったボールをまた使いたいあまり、茂みの中に隠してしまう様子について、それぞれの意見を出し合いました。するいことをしそようになった時に、自分自身をコントロールすることの大切さに気付いていました。

道徳授業地区公開講座担当より

道徳主任(道徳教育推進教師) 鮎澤 麻衣

道徳の時間は、子どもたちが「自分はどう生きたいか」「相手をどう大切にしたいか」をゆっくりと考える、大切な学びの時間です。学校だけでなく、家庭や地域の皆様と一緒に子どもたちの心を育てていけるよう、道徳教育の充実に取り組んでいます。

今年度は、講師の松井先生から「待つ・聴く・受け止める」という3つの姿勢を教えていただきました。子どもが安心して自分の思いを話せるように、先生たちも子どもの言葉を急かさず、丁寧に耳を傾け、気持ちごと受け止めることを日々心掛けています。また、どの学年でもこの姿勢を大切にしながら授業を行い、子どもたちが「ここで話してもいいんだ」と感じられる温かい雰囲気作りに努めています。

道徳の授業では、正解がひとつに決まらないことも多く、子どもたちが自分の感じ方や考え方と向き合うことが大切になります。先生が答えを教えるのではなく、子どもたちの中から生まれる思いや気持ちに寄り添いながら、対話を通して学びが深まるように発問や資料提示を工夫しています。子どもたちが相手の考えを聞く中で、「そんな考え方もあるんだ」と気付く瞬間があり、そうした経験が自分も相手も大切に作る心につながります。

ご家庭でも、道徳の授業があった日には、ぜひ「今日はどんな話をしたの?」「どんなことを考えたの?」と、さりげなく声を掛けてみてください。おうちの方に自分の言葉で話すことで、子どもたちの学びがさらに深まりますし、「あなたの考えを大切にしているよ」という気持ちも自然と伝わります。そして学校での学びと家庭での会話をつなげ、子どもたちの心を共に豊かに育てていければ幸いです。

—【講師である松井敏先生のご講演について】—

~~当日のご講演の様子について動画を撮影いたしました。ご家庭のPCや通信状況等に合う動画の視聴パターンを選び、ご視聴ください。~~

保護者向けのため、外部非公開